

FRIENDLY

FRIENDLY REPORT

第55期 中間報告書

平成20年4月1日→平成20年9月30日



株式会社フレンドリー

証券コード：8209

ほかにはないサービスで 「いつも選ばれるお店」をめざします。

おいしい食事や居心地のいい空間を提供し、毎日お迎えするお客様の笑顔の輪を広げていくこと。これこそが、当社の願いであり、外食サービス企業として成長を続けていくための原動力です。

どんなときでも、「選ばれるお店」になるために、フレンドリーはさらなる高みをめざしてまいります。



一本仕入れのまぐろと新鮮な寿司、備長炭で焼き上げる炉端料理が名物。家族連れを中心に気軽なおはし処としてご好評をいただいております。

37 店舗



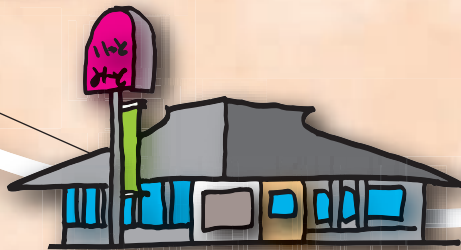
食を通じた団樂とふれあいの絆づくりをテーマにした和食レストラン。新鮮な旬の食材を旨味と持ち味に活かしたメニューには定評があります。

19 店舗



健康応援バイキング・レストラン。60種類以上のメニューを自由に組み合わせて、バランスのとれたお食事を楽しんでいただけるお店です。


1 店舗





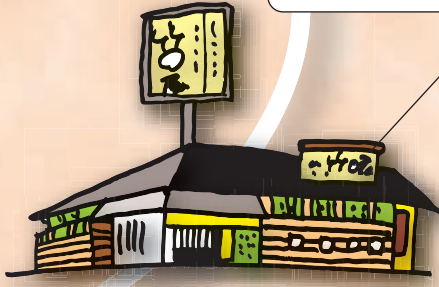

日本の原風景「里山」をテーマにした都市型居酒屋です。どこか懐かしさを感じる店内で、和み料理と味わいの酒を楽しんでいただけます。

18 店舗



かぐや姫の里、安芸の小京都「竹原」をテーマにした本格的和食のお店。しゃぶしゃぶ・鍋・季節の和膳をお手頃価格で提供しています。

2 店舗




「おいしい」「たのしい」「ここちよいい」をテーマに地域に根ざしたカジュアルなファミリーレストランです。お客様の健やかな生活を考えて、バランスのとれたメニューと、こだわりの美味しさを取り揃えてお迎えています。

47 店舗



※店舗数は、平成20年12月末予定のものです。



付加価値あるサービスで お客様満足をより一層高め、 利益成長との両立を図ります。

代表取締役 社長

重里 育孝

Q1 経営環境について

株主の皆様には、平素より格別のご高配を賜り誠に厚く御礼申し上げます。

当社第55期第2四半期累計期間（平成20年4月1日から平成20年9月30日まで、以下、「当上半期」と表記）の営業のご報告をお届けするにあたり、ご挨拶を申し上げます。

当上半期のわが国における経済環境は、米国のサプライム問題に端を発した金融不安が実体経済に大きく影響を与え、景気は後退に転じました。当外食業界では、食の安心・安全を揺るがす問題が後を絶たないことに加え、同業他社のみならず中食業界との競争が激化したことや、消費者の生活防衛意識の高まりにより個人消費が減退したことなどから、当社を取り巻く経営環境は以前にも増して厳しい状況が続いております。

Q2 上半期の経営成績について

このような環境のもと、当社におきましては、当期の outlet・業態転換ベースをスローダウンさせ、①各業態の店舗オペレーション見直しによる運営コストの低減、②商品構成の見直しによる原価の改善と適正な粗利益の確保、③恒常化した販売促進（割引）費の適正化、④顧客満足度向上への取り組みとともに従業員満足度の向上、等の施策に全力で取り組んでおります。

店舗展開につきましては、「団欒れすとらん ボンズ」から「産直鮮魚と寿司・炉端 源べい」へ4店舗を転換し、順調に推移しております。また、「ギンガムキッチン」を「ファミリーレストラン フレンドリー」に転換いたしました。一方、不振店を4店舗（ボンズ3店舗、フレンドリー1店舗）閉鎖いたしましたので、当上半期末の店舗数は前期末比4店舗減少し、125店舗（前年同期比6店舗の減少）となりました。

業態別には「おいしい・たのしい・ここちいい」をコンセプトとする洋食の「ファミリーレストラン フレンドリー」47店舗、一本仕入の本マグロが好評の「産直鮮魚と寿司・炉端 源べい」37店舗、「和・洋・中の料理と団欒」をコンセプトとする「団欒れすとらん ボンズ」20店舗、「日本の原風景“里山”」をコンセプトとする居酒屋「和み料理と味わいの酒 土筆んぼう」18店舗、「かぐや姫の里 安芸の小京都“竹原”」をコンセプトとする「しゃぶしゃぶ・鍋 季節の和膳 竹小屋」2店舗、「健康応援バイキング」のレストラン「ダイニング・ビュッフェい〜とみ〜と」1店舗となっております。

消費者の外出控えや店舗数の減少の結果、売上高は、7,806百万円（前年同期比486百万円の減少）となりました。営業利益は42百万円（前年同期比155百万円の増加）、経常利益は48百万円（前年同期比154百万円の増加）となり、当期の重点施策である人件費・広告宣伝費のコントロール効果が現われ、前年同期に比べて改善いたしました。なお、低採算店の減損損失・店舗閉鎖に

伴う固定資産除却損・貸倒引当金の繰入れ等187百万円を特別損失に、繰延税金資産の取崩し等による税金費用57百万円を法人税等調整額に計上いたしましたので四半期純損失は204百万円（前年同期比135百万円の減少）となりました。

当上半期の営業成績については、誠に遺憾ながら株主の皆様のご期待に添うことができませんでしたが、現在当社が取り組んでいる構造改革には一定の成果が出始め、少しずつ利益体質への変容を遂げようとしている段階であると考えています。

Q3 今取り組んでいること

①メニュー開発プロジェクトによるお値打ち感の創出

今、お客様の食へのこだわりやニーズは、ますます多様化・高度化しております。一方で、食材価格が高値に転じたことによる販売価格の見直しから、当社の思惑と異なる客単価の上昇が起こっており、個人消費の減退とも相まって外食離れが加速していることも否めません。

そこで当社では、経済環境に惑わされない、確固たる収益性を確保するため、単なる値下げによる価格競争ではなく、リーズナブルでもお食事としての満足度が高いお値打ち感を追求したメニュー開発を推進してまいります。

特に当社の第二の主力ブランドとして順調に成長を遂げております「産直鮮魚と寿司・炉端 源べい」では、その効果を早期に反映させるべく、現在、最優先でメニュー開発・改良のためのプロジェクトを遂行しております。

このプロジェクトの目的は、メニューそれぞれの単価を見直すと同時に、「もう一品」とお客様にご注文いただけるような、魅力ある商品構成へと改良していくことです。「源べい」のコンセプトである鮮度重視の方針はそのままに、仕入れ、商品企画、店舗における調理作業の効率化を再検討し、他社の追随を許さないバラエティー感やお値打ち感を創出できるよう協議を重ねています。今期中には、「源べい」の新しい目玉商品とともに商品構成が完成する計画です。

②お客様と「感動」の輪を広げる店づくりを目指して

今後、各業態におきましては、お食事としての満足度が高い商品開発や店舗づくりを継続して推進してまいります。

「ファミリーレストラン フレンドリー」は、店舗の改装ごとに導入を進めておりますオープンキッチン形式やバイキング形式のサービス提供が奏功し、相応の成果が具現化しております。

また厳選された素材とおいしさを追及したステーキなどもお客様から大変ご好評をいただいております。

都市型居酒屋「和み料理と味わいの酒 土筆んぼう」では、下半期の11月・12月が忘年会などの宴会シーズンになることから、外訪活動に注力しております。

当社は今後も「テーブルサービスレストラン」としての原点を見つめつけ、付加価値の高い食の提供と、質の高い接客サービスをお客様に提供できる従業員の育成に努め、お客様と従業員のコミュニケーションから生まれる「感動」の輪を広げてまいりたいと思います。

Q4 品質管理体制について（食の安全・安心）

当社は創業以来、「テーブルサービスレストラン」という理念のもと、顧客満足の上昇を図っております。

その一環として当社は、食を取り扱う企業としての責務を全うすることは当然のことと考えております。

特に食の安全・衛生管理につきましては、前期から取り組んでおりましたフレンドリー品質保証システムの見直し完了。新設いたしましたコンプライアンス部の稼働とともにフレンドリー購買基準の再構築と、衛生管理・検査体制、品質管理体制の強化を進めております。

また、各業態への安定供給やコストの点から一部使用している中国原産の食材につきましては、トレーサビリティ情報や各種検査結果により品質と安全性を確保しております。

株主の皆様におかれましては、より一層のご支援とご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。

特集Ⅰ 業態紹介



四季折々のこだわり食材を使ったおもてなし

業態転換事業としてスタート いまやフレンドリーグループの第二ブランドに

「産直鮮魚と寿司・炉端 源べい(以下、源べい)」は、フレンドリーグループの中核を担う看板レストランとして成長を続けている新業態です。

「源べい」の第1号店として東香里店がオープンしたのは、平成17年4月。「団欒れすとらん・ボンズ(以下、ボンズ)」の不振店対策としてのスタートでした。「ボンズ」は総合的なメニューを展開しておりましたが、「源べい」は、はっきりとしたコンセプトのもと、主力商品を明確化。その戦略がお客様と時代のニーズにマッチし、飛躍的な成長に繋がりました。

当社は源べい東香里店の成功を皮切りに、「ボンズ」の業態転換を加速。現在、「源べい」は関西圏を中心に合計37店舗を構えるまでになりました。

「寿司」「産直鮮魚のおさしみ」「備長炉端」 こだわりの明確化によりお客様ニーズを掴む

「源べい」では、「寿司」「産直鮮魚のおさしみ」「備長炉端」が主力商品です。鮮魚をメインの食材としているため、新鮮なものを新鮮なうちに召し上がっていただけるよう常に意識しているのはもちろんのこと、たとえばマグロはまるごと一本で仕入れるなど、食材の産地や仕入れにもこだわりを持っています。お客様からは、「四季折々の素材を丹念に料理したこだわりの味を楽しめる」と大変ご好評をいただいております。

お客様一人当たりの単価はお食事で2,200円前後、宴会の場合はお飲み物込で2,700円前後となっております。しっかりお食事をしていただけるメニュー構成で、これからも、より多くのお客様にこだわりのお料理を提供してまいります。



現場から



産直鮮魚と寿司・炉端
おはし処 源べい
和歌山宮街道店 店長
岡本 晃

「源べい・和歌山宮街道店」は、和歌山インターからほど近いロードサイトにあります。平日は、社員など大阪方面へ帰る方の移動の合間のお食事。週末は、お子様連れのご家族などを中心とした近隣の方々にご来店いただいております。店内に活気があふれる夕食時間帯は、お客様にソフトクリームをプレゼントする店内イベント「ジャンケンボン大会」で盛り上がります。株主様には、ぜひ一度足を運んでいただき、当店自慢のお料理と元気な店内をお楽しみいただければと思います。



特集Ⅱ サービス向上への取り組み

社員のモチベーションを高める
「第1回フレンドリーフォーラム2008」を開催

全社的な接客サービスの向上を目指して

当社では、各業態の各店舗で働く従業員一人ひとりのやる気を引き出し、スタッフ間の結束力を高めていくことが、お客様へ質の高いサービスを提供できる原動力だと考えております。

そこで当上半期は、当社初の試みとして「第1回フレンドリーフォーラム2008」を開催いたしました。

これは、各業態の各店舗で具体的な売上高目標を掲げながら、お客様満足と従業員満足を実現するための取り組みについて、スタッフ間で意見を出しあい、それを実践しながら、各業態のさまざまな自助努力を促す取り組みです。

自助努力の方法は、各業態の各店舗で店長をはじめ、パートナー・アルバイトのリーダーを含めたパートナースタッフ全員の討議、検討を繰り返しながら、企画・実行されていきます。

これにより、店舗内でのスタッフ間の絆が深まることはもとより、お客様満足度の向上と、その成果としての売上高目標の達成を目指すことで、「現場力」が養われていきます。



「第1回フレンドリーフォーラム2008」発表会

今回の「第1回フレンドリーフォーラム2008」では、「感動」をテーマに、店舗での実践活動をととして優秀な成績を収めた店舗を、各業態で1店ずつ選出。2008年10月21日に大東市立文化ホール（サーティーホール）で発表・表彰式を行いました。

発表・表彰式には、関西圏の全店舗から300名以上の従業員が参加。各業態から選ばれた優秀店の店長およびスタッフが壇上に上がり、映像などを用いてプレゼンテーションを行いました。今回は、「感動」をテーマにした取り組みだけあり、各業態の各店舗の創意と工夫にあふれる演出には、自然と拍手が沸き起こっていました。

第1回最優秀賞は「フレンドリー西区南堀江店」、準優秀賞は「源пей和歌山宮街道店」が選ばれ、盛況のうちに幕を閉じました。

当社は今後も、店舗間で情報交換できる場やお互いの成果を発表できる場を継続的に設け、全社的な社員モチベーションの向上に取り組みたいと考えております。



最優秀賞を受賞したフレンドリー西区南堀江店

貸借対照表

(単位：百万円)

| | 当第2四半期末 平成20年9月30日現在 | 前期末 平成20年3月31日現在 |
|----------------|-------------------------|---------------------|
| (資産の部) | | |
| 流動資産 | 2,863 | 3,183 |
| 固定資産 | 8,107 | 8,351 |
| 有形固定資産 | 5,263 | 5,331 |
| 無形固定資産 | 58 | 59 |
| 投資その他の資産 | 2,784 | 2,960 |
| 資産合計 | 10,971 | 11,534 |
| (負債の部) | | |
| 流動負債 | 1,372 | 1,479 |
| 固定負債 | 1,770 | 2,018 |
| 負債合計 | 3,143 | 3,497 |
| (純資産の部) | | |
| 株主資本 | 8,698 | 8,902 |
| 資本金 | 3,975 | 3,975 |
| 資本剰余金 | 3,058 | 3,058 |
| 利益剰余金 | 1,675 | 1,879 |
| 自己株式 | △ 10 | △ 9 |
| 評価・換算差額等 | △ 870 | △ 865 |
| その他有価証券評価差額金 | 60 | 65 |
| 土地再評価差額金 | △ 930 | △ 930 |
| 純資産合計 | 7,827 | 8,037 |
| 負債・純資産合計 | 10,971 | 11,534 |

損益計算書

(単位：百万円)

| | 当第2四半期(累計) 平成20年4月1日から 平成20年9月30日まで | 前中間期 平成19年4月1日から 平成19年9月30日まで |
|------------------|---|-------------------------------------|
| 売上高 | 7,806 | 8,292 |
| 売上原価 | 2,498 | 2,681 |
| 売上総利益 | 5,307 | 5,611 |
| 販売費及び一般管理費 | 5,264 | 5,724 |
| 営業利益または営業損失(△) | 42 | △ 112 |
| 営業外収益 | 93 | 97 |
| 営業外費用 | 87 | 91 |
| 経常利益または経常損失(△) | 48 | △ 106 |
| 特別利益 | 11 | 202 |
| 特別損失 | 187 | 147 |
| 税引前四半期(中間)純損失(△) | △ 127 | △ 51 |
| 法人税、住民税及び事業税 | 18 | 17 |
| 法人税等調整額 | 57 | △ 1 |
| 四半期(中間)純損失(△) | △ 204 | △ 68 |

キャッシュ・フロー計算書

(単位：百万円)

| | 当第2四半期(累計) 平成20年4月 1日から 平成20年9月30日まで | 前中間期 平成19年4月 1日から 平成19年9月30日まで |
|-----------------------|--|--------------------------------------|
| 営業活動によるキャッシュ・フロー | 87 | 106 |
| 投資活動によるキャッシュ・フロー | △ 152 | △ 367 |
| 財務活動によるキャッシュ・フロー | △ 220 | △ 293 |
| 現金及び現金同等物の増加額又は減少額 | △ 285 | △ 554 |
| 現金及び現金同等物の期首残高 | 2,820 | 2,857 |
| 現金及び現金同等物の四半期(中間期末)残高 | 2,535 | 2,302 |

中間配当について

当期の中間配当につきましては、まことに遺憾ながら見送らせていただくことになりました。
何卒ご了承いただきますようお願い申し上げます。

安全・安心に召し上がっていただくために

中国産冷凍食品への農薬混入や事故米の不正転売、中国製乳製品へのメラミン混入など、お客様の食への信頼を揺るがす出来事が未だに後を絶ちません。

このような状況のなか、当社では再度「お客様基点」を認識し、衛生管理や品質管理の強化だけでなく、「コンプライアンス」や「リスクマネジメント」、「情報の収集・伝達・開示」も含め総合的な取り組みを行なうため、社内態勢を強化しております。

企画・開発での安全性の確保

商品の企画・開発の段階より、使用する食材の産地からお客様提供までの、全ての工程におけるリスクの評価と管理方法を検討し、食材の危害分析に基づいた安全対策を販売前の実験で検証したうえで、調理及び店舗作業のマニュアルと管理基準を確定しております。

仕入れでの安全性の確保

仕入れの段階では、食材のリスク評価に基づいて管理レベルの分類を行ない、トレーサビリティ情報や各種検査結果を確認したうえで、管理レベルに応じた産地・委託工場・流通経路の調査・確認を行なっております。

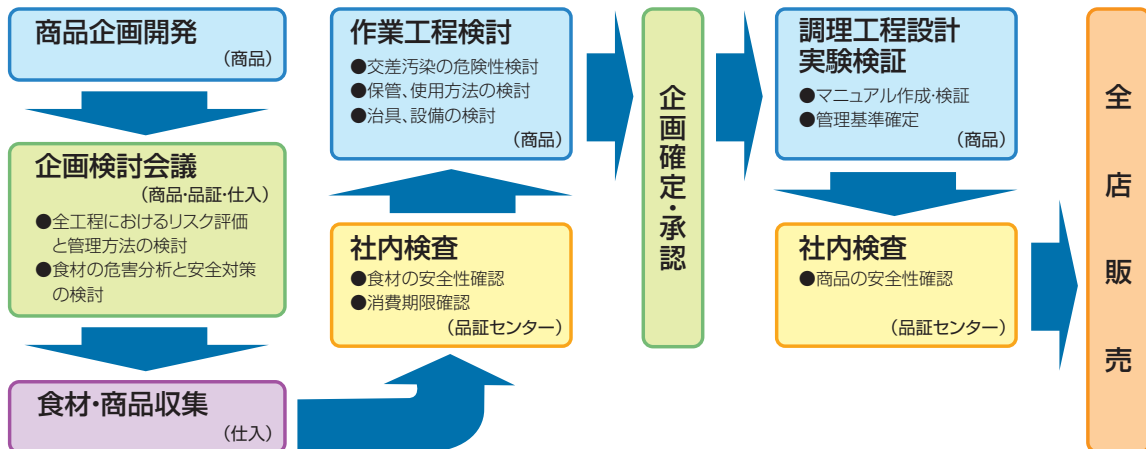


検査室での細菌検査



委託工場の品質調査

企画・開発での安全性の確保のフロー



会社の概要

(平成20年9月30日現在)

| | |
|---------|----------------------|
| 商号 | 株式会社 フレンドリー |
| 英文商号 | FRIENDLY CORPORATION |
| 設立 | 昭和29年8月9日 |
| 資本金 | 3,975,062,600円 |
| 発行済株式総数 | 14,645,584株 |
| 従業員数 | 377名 |
| 本社 | 大阪府大東市寺川三丁目12番1号 |
| 工場 | 大阪府大東市寺川三丁目12番1号 |
| 主な事業内容 | ファミリーレストラン事業 |

役員

(平成20年9月30日現在)

| | |
|---------|--------|
| 代表取締役社長 | 重里 育孝 |
| 専務取締役 | 吉村 哲行 |
| 取締役 | 牧野 健太郎 |
| 取締役 | 小瀬 透 |
| 取締役 | 三好 秀文 |
| 常勤監査役 | 手川 明映 |
| 監査役※ | 山口 利昭 |
| 監査役※ | 大西 耕太郎 |

(注) ※印は、社外監査役であります。

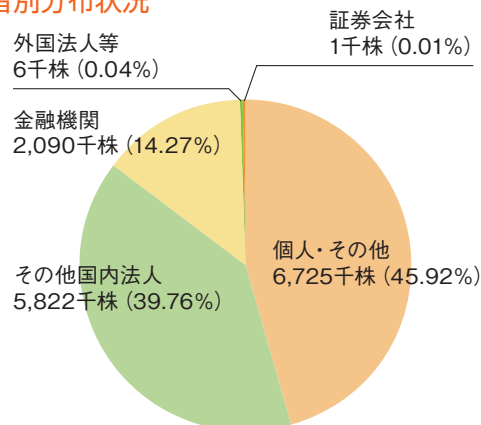
●株式の状況

| | |
|----------|--------------------------------|
| 発行可能株式総数 | 61,800,000株 |
| 発行済株式総数 | 14,645,584株 (うち自己株式19,985株) |
| 株主数 | 4,339名 |

●大株主

| 株主名 | 当社への出資状況 | |
|--------------------------------|----------|---------|
| | 持株数(千株) | 持株比率(%) |
| 株式会社きずな | 3,920 | 26.76 |
| 重里育孝 | 2,009 | 13.71 |
| 日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社 (信託口4) | 656 | 4.47 |
| 株式会社りそな銀行 | 532 | 3.63 |
| アサヒビール株式会社 | 500 | 3.41 |
| フレンドリー共栄会 | 377 | 2.57 |
| 株式会社三菱東京UFJ銀行 | 310 | 2.11 |
| みずほ信託銀行株式会社 | 304 | 2.07 |
| 東京海上日動火災保険株式会社 | 204 | 1.39 |
| フレンドリー従業員持株会 | 200 | 1.37 |

●所有者別分布状況



株主メモ

- 事業年度 4月1日から翌年3月31日まで
- 定時株主総会 6月
- 単元株式数 1,000株
- 剰余金の配当基準日 期末配当 3月31日
中間配当 9月30日
- 基準日 定時株主総会 3月31日
その他、必要あるときはあらかじめ
公告して定めた日
- 株主名簿管理人
事務取扱場所 東京都中央区八重洲一丁目2番1号
みずほ信託銀行株式会社
本店証券代行部
- 公告方法 電子公告
(<http://www.friendly-co.com/>)
ただし、事故その他やむを得ない事由
によって電子公告による公告をすること
ができない場合は、日本経済新聞に
掲載する方法により行う。

●お問合せ先

| | | |
|------------------------|--|---|
| | 平成20年12月30日まで | 平成21年1月5日より |
| 郵便物送付先 | 〒135-8722 東京都江東区佐賀1-17-7 | 〒168-8507 東京都杉並区和泉2-8-4 |
| 電話お問い合わせ先 (フリーダイヤル) | 0120-288-324(変更ありません) | |
| 取次所 | 株式名簿管理人取次所 みずほ信託銀行株式会社 全国各支店 みずほインベスターズ証券 株式会社 本店および全国各支店 | 特別口座管理機関取次所 みずほ信託銀行株式会社 全国各支店 みずほインベスターズ証券 株式会社 本店および全国各支店 |

決算公告に代えて、貸借対照表および損益計算書は、EDINET（金融商品取引法に基づく有価証券報告書の開示書類に関する電子開示システム）にて開示しております。

ホームページのご案内



<http://www.friendly-co.com/>

フレンドリーのホームページでは、店舗情報やメニュー情報を随時更新しています。
また、品質保証システムについても詳しく説明しております。是非ご覧ください。

株式会社フレンドリー

